

徳島河川国道事務所版（吉野川下流域）

5年生社会科

「自然災害の防止」

発問及び板書計画（案）

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川調査課

〒770-8554

徳島県徳島市上吉野町3丁目35

TEL : 088-654-2211(代)

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

発問及び板書計画(1/4 自然災害の起こりやすい国土)

※水色の文字については、小学5年生にて学習する漢字を示す。


配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
導入 (10分)	<p>T:この写真を見てほしいのですが、これは何の災害か分かりますか？ <u>黒板貼り付け：平成23年9月の台風によるこう水の写真（フジグラン石井）</u> (C:こう水だと思います)</p> <p>T:そう、こう水の写真です。これは、平成23年9月の台風によって、石井町で起こったこう水の写真です。では、日本には、こう水以外にどのような自然災害があるのでしょうか。今日はこういった自然災害について学習していきたいと思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 10px;">日本ではどんな自然災害が起こっているのだろう</div>	 <p>平成23年9月の台風によるこう水</p>	<ul style="list-style-type: none"> 写真を活用し、災害のおそろしさを気付かせる。
展開 (30分)	<p>T:では、こう水以外にどのような自然災害があるか考えてみましょう。教科書下P.40～P.43も参考にしてください。</p> <p>T:考えたことを発表してください。 (C:地しん、つ波、台風、土しゃくずれ、冷害、雪害、たつまき、ふん火だと思います) <u>黒板貼り付け：自然災害の写真（土しゃくずれ）</u> <u>電子黒板：自然災害の写真（地しん、つ波、ふん火）</u></p> <p>T:そうですね。この中でもこう水、土しゃくずれは台風や大雨が原因で起こることから水害と言います。このように日本ではさまざまな災害が起こっています。日本では、なぜこのような災害が起こるのでしょうか？考えた理由を発表してください。 (C:つ波が起こるのは、地しんが多いからだと思います) (C:地しんによる災害が起こるのは、しんげん地がたくさんあるからだと思います) (C:つ波による災害が起こるのは、海に囲まれているからだと思います) (C:日本は雨の量が多いので、こう水や土しゃくずれが起こりやすいのだと思います) (C:日本は台風がたくさん通るので、こう水や土しゃくずれが起こりやすいのだと思います) (C:最近は大雨が増えているので、こう水が起こりやすいのだと思います)</p> <p>T:では、これらの理由をグループ分けしてみましょう。どのようにグループ分けできるでしょうか？ 「地形」と「気候」、この2つのグループに分けてみてください。</p> <p>T:地しん・つ波や火山のふん火が起こる理由はどちらのグループにあてはまると思いますか？ (C:地形のグループだと思います)</p> <p>T:では、こう水や土しゃくずれはどうでしょうか？ (C:こう水や土しゃくずれは雨が原因なので気候のグループだと思います)</p> <p>T:こう水や土しゃくずれは、どんなところで起こりますか？ (C:土しゃくずれは山だと思います) (C:こう水は川の近くの平野だと思います)</p> <p>T:こう水や土しゃくずれなどの水害は、地形のグループにもあてはまりそうですね。このように、こう水や土しゃくずれなどの水害は、地形と気候の条件が重なって起こる災害だと言えます。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>教科書下 P.40～P.43</p>  <p>自然災害の写真（土しゃくずれ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(地しん) (つ波)</p>  <p>(ふん火)</p> <p>自然災害の写真</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害の種類ごとにグループ分けして板書していく。

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>T:これからプリントを配ります。 <u>プリント配布：吉野川水系流いき図，日本ではどのくらい雨がふるのだろう，吉野川河口部横断図</u></p> <p>T:吉野川水系流いき図を見てください。 T:緑色の線で囲まれている所が，吉野川流いきです。 T:流いきとは，地上にふった雨や雪解け水がその河川に流れ込むはん囲です。 <u>電子黒板：流いきとは</u></p> <p>T:では，災害が起こる理由で，私たちがふだんから見ている吉野川で当てはまることはありませんか？ プリントと教科書下P.42を見て考えてみてください。</p> <p>T:どうですか？ (C:吉野川が流れている所は雨が多い地いきです) (C:吉野川の河口付近はこう水時の水位よりも，周りの家や道路がある土地の方が低いので，こう水が起こりやすい地形だと思います)</p> <p>T:そうですね。私たちがふだんから見ている吉野川では水害が起こりやすい地いきだと言えます。</p> <p>T:この写真を見てください。これは，平成23年9月の台風によって，石井町で起こったこう水の写真です。 <u>電子黒板：平成23年9月の台風によるこう水の写真（フジグラン石井）</u></p> <p>T:こう水などの水害が起こった時，私たちの生活や産業にはどのようなえいきょうがあるのでしょうか。考えてみましょう。</p> <p>T:では，考えたことを発表してください。 (C:家や学校やお店がしん水すると思います) (C:車が走れなくなると思います) (C:電気や水道，ガスが使えなくなると思います) (C:農作物がしん水すると思います) (C:命にき険があると思います)</p> <p>T:そうですね。水害が起こると私たちの生活や産業は大きなひ害を受けます。</p> <p>T:このようなこう水から私たちの命や地いきを守るためにてい防などのし設があります。 もしてい防がなかったら，こう水は川からあふれてしまいます。 てい防があると，こう水を川にとじこめることができ，ひ害を小さくできます。 <u>電子黒板：てい防の役わり</u></p>	<p>教材</p> <p> 吉野川水系流いき図</p> <p> 日本ではどのくらい雨がふるのだろう</p> <p> 吉野川河口部横断図</p> <p> 教科書下P.42</p> <p> 流いきとは</p> <p> 平成23年9月の台風によるこう水（フジグラン石井）</p> <p> てい防の役わり</p>	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 吉野川にがい当する地形・気候条件を考え，水害が起こりやすいことに気付かせる。 水害が私たちの生活や産業に大きなえいきょうをあたえることを気付かせる。


配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
まとめ (5分)	<p>T:今日の学習で分かったことを、ノートにまとめてください。</p> <p>T:ノートにまとめたことを発表してください。 (C:日本は自然災害が起りやすい地形や気候となっていることが分かりました) (C:吉野川の周りでは、水害が起りやすいということが分かりました) (C:水害が起ったら、私たちの生活や産業に大きなひ害がでることが分かりました) (C:こう水があふれることを防ぐために防などのし設があることが分かりました)</p> <p>T:それでは、今日のまとめです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ：日本は自然災害が起りやすい地形や気候となっている。 吉野川が流れている所は雨が多く、吉野川の下流付近の土地は川の高さよりも低いいため、水害が起りやすい。 水害が起ったら、私たちの生活や産業は大きなひ害を受ける。 こう水があふれることを防ぐために防などのし設がある。</p> </div>		

<板書計画>

日本ではどんな自然災害が起っているのだろう



こう水



土しゃくずれ

水害

- ・地震・台風・冷害・雪害 ・たつまき・ふん火

↓

自然災害が起るのはなぜだろう？

地形

- ・地しんが多い
- ・しんげん地がたくさんある
- ・海に囲まれている
- ・平野でこう水が起る
- ・山で土しゃくずれが起る

気候

- ・雨の量が多い
- ・台風がたくさん来る
- ・大雨が増えている

吉野川ではどうだろう？

- ・吉野川が流れている所は雨が多い
- ・こう水時の水位よりも、周りの家や道路がある土地の方が低い

⇒

吉野川は水害が起りやすい

水害が起ったら

- ・家や学校やお店がしん水
- ・車が走れなくなる
- ・電気、水道、ガスが使えなくなる
- ・農作物がしん水
- ・命にき険がある

⇒

私たちの生活に大きなひ害

まとめ：日本は自然災害が起りやすい地形や気候となっている。
吉野川が流れている所は雨が多く、下流付近の土地は川の高さよりも低いため、水害が起りやすい。
水害が起ったら、私たちの生活や産業は大きなひ害を受ける。
こう水があふれることを防ぐために防などのし設がある。

発問及び板書計画(2/4 こう水と水害の歴史)

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>導入 (10分)</p>	<p>T:みなさん、前回の授業ではどんなことを学習しましたか? (C:日本は自然災害が起りやすい地形や気候となっていることが分かりました) (C:吉野川の周りでは、こう水などの水害が起りやすいことが分かりました) (C:水害が起ったら、私たちの生活や産業に大きな被害がでることが分かりました) (C:こう水があふれるのを防ぐために防などのし設があることが分かりました)</p> <p>T:そうですね。吉野川の周りでは、こう水が起りやすいということが分かりましたね。 水害が起ると私たちの生活や産業は大きな被害を受けます。 こう水があふれるのを防ぐために防などのし設があることも前回の授業で分かりましたね。</p> <p>T:この絵図をみてください。これは昔の吉野川の姿を見ることができる絵図です。1646年(正保3年)に作られたとされています。 (絵図を示しながら)この黒色の線でかかっている部分が川です。 <u>黒板貼り付け：昔の吉野川<1646年> (阿波淡路両国絵図)</u></p> <p>この写真は現在の吉野川、旧吉野川、今切川を飛行機からさつえいしたものです。 <u>電子黒板：今の吉野川<2012年> (航空写真)</u></p> <p>T:この絵図と写真を見比べて、どんなことが言えますか? (C:昔の吉野川は、いくつもの川がくねくねと流れています)</p> <p>T:そうですね。いくつもの川があみ目のように入り組みながら、くねくねとだ行して海まで流れていますね。 このころは今のようない防がありませんでした。</p> <p>T:てい防がないと、どんなことが起きると思いますか? (C:こう水がたびたび起ると思います)</p> <p>T:そうですね。昔はこう水がたびたび起きていました。</p> <p>T:こう水が起きると、どんなえいきょうがありましたか? (C:農作物がしん水します)</p> <p>T:そうですね。こう水が起きるといねなどの農作物がしん水することがあります。でも、こう水は悪いことばかりではありません。 農作物の成長に必要な栄養を多くふくんだ土を運んできてくれます。このこう水で運ばれてきた土はあい作に適していました。 あいは、こう水が多く発生する時期の前にしゅうかくできたので、いな作よりもあい作がとともさかんでした。 明治36年の徳島県のあいの作付面積は、約150k m²でした。この面積は、石井町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町の面積の合計139k m²よりも広く、香川県の小豆島とほぼ同じ面積で、全国一のあいの産地でした。</p> <p>T:今日は、吉野川のこう水と水害の歴史について学習していきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 吉野川にはどんなこう水や水害の歴史があるのだろう </div>	<p style="text-align: center;">  昔の吉野川<1646年> </p> <p style="text-align: center;">  今の吉野川<2012年> </p>	<p>・吉野川は過去から大きな水害になやまされていたことを伝える。</p>

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>T: 私たちが住んでいる徳島平野では、連続したてい防がつくられてから約90年間、てい防がこわれて川の水があふれるような大きな水害は発生していません。しかし、今のようなてい防がなかったころは、たびたびこう水が起きていました。今から約150年前の1866年(けい応2年)8月に大こう水が起きました。</p> <p>T: この写真を見てください。これは、徳島市国府町にあるぞうしゅ院というお寺に残されたこう水のあとです。 <u>電子黒板：1866年(けい応2年)に起きたこう水のあと(ぞうしゅ院 茶室)</u></p> <p>T: このこう水は、四国をはじめ、近畿、中部、関東から東北にいたるまで、全国的な水害となりました。このお寺に残っているシミの高度は、床から約60cmです。土地の低いところでは、天井まで達するほどのしん水があったそうです。</p> <p>T: この写真は、この時の大こう水のおそろしさをみんなに伝えるために、しん水した深さを示した柱です。 <u>電子黒板：1866年(けい応2年)に起きたこう水のあと(ぞうしゅ院 標柱)</u></p> <p>T: この時のしん水した深さはどれくらいだったと思いますか？ (C: ●mぐらいだと思います)</p> <p>T: 約3mから4mしん水しました。この教室の床から天井を越えるぐらいまでしん水したことになります。</p> <p>T: 昔の人は、水害から命や暮らしを守るためにいろいろな工夫をしてきました。</p> <p>T: この写真を見てください。どこの家か分かりますか？ <u>黒板貼り付け：田中家</u> (C: 田中家だと思います)</p> <p>T: そうですね。私たちが住んでいる石井町にある田中家です。 この家を見て、水害から家を守るためにどんな工夫がされているか分かりますか？ (C: 周りの土地より家が高くなっています) (C: 家の周りが石がきで囲まれています)</p> <p>T: そうですね。周りの土地より高くしたところに家を建てて、その周りを石がきで囲っていますね。</p> <p>T: 何かに似ていませんか？ (C: お城に似ていると思います)</p> <p>T: そう、お城に似ていますね。お城に似ているのでこのようなつくりの家を「城構えの家」と言います。 石を積み上げて周りの土地より高くして、こう水で家が流されたりしん水するのをさけるようにつくられた水防建築物です。 家の周りの石がきは、吉野川のこう水がやってくる方向ほど高くがんじょうになっています。</p> <p>T: 母屋の屋根はかやぶきで、こう水で水が屋根までくると屋根がうき上がり舟の代わりになるようにできています。 <u>黒板貼り付け：田中家(かやぶき屋根)</u></p>	<p> 1866年に起きたこう水のあと(茶室)</p> <p> 1866年に起きたこう水のあと(標柱)</p> <p> 田中家</p> <p> 田中家(かやぶき屋根)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 石井町のこう水と水害の歴史を伝える。 昔の人が水害から命や暮らしを守ってきた知恵を伝える。

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>T:次に、この写真を見てください。このお地ぞうさんは、石井町西覚円にある愛ご地ぞうです。 <u>電子黒板：愛ご地ぞう（高地ぞう）</u></p> <p>T:ここは、明治21年7月に発生したこう水によって、工事中のてい防がこわれてしまった場所です。 このころの家にはこう水に流されないように「もちの木」という木が植えられていて、この時も人々は「もちの木」によじ登り助けを求めましたが、水の勢いがどんどんはげしくなり、さらに上流から流されてきた家が引っかかってしまったため、一しゅんにして「もちの木」も人も流され、とうとい命が失われました。 愛ご地ぞうは、ふたたび水害にあわないようにとの思いから建てられたお地ぞうさんです。</p> <p>T:吉野川の周りに残されているお地ぞうさんは、台座が高いのが特ちょうで「高地ぞう」と呼ばれています。 なぜ台座が高いか分かりますか？ (C:こう水につからないようにだと思います)</p> <p>T:そう、台座が高いのは、お地蔵さんがこう水につかったり流されないようにとの願いで高くなっています。 吉野川の下流には、高地ぞうがたくさんあります。</p> <p>T:どれくらいあると思いますか？ (C:●●)</p> <p>T:約250体あります。そのうち、台座の高さが1mを越えるお地ぞうさんは190体もあります。高地ぞうは、吉野川の下流、しかも石井町がある南岸に多く残っています。これは、下流ほどこう水時の水位が高く、南岸の方が北岸よりも土地が低かったため、こう水がたびたび起きていたからだと言われています。</p> <p>T:この写真を見てください。これは昔地いきを守るためにつくられたてい防です。 土をかき寄せててい防をつくっていたので、かき寄せていと呼ばれています。 <u>黒板貼り付け：かき寄せてい</u></p> <p>T:もし吉野川の南岸と北岸でてい防の高さがちがっていたらどうなると思いますか？ (C:てい防が低い方に水があふれると思います)</p> <p>T:そうですね。てい防の高さがちがうと、こう水の時、高い方は水があふれなくて、低い方は水があふれます。 昔、自分たちの地いきを守るために、川の反対側のてい防より自分たちの地いきのてい防を高くするといった争いがありました。 <u>黒板貼り付け：てい防のイラスト</u></p> <p>T:石井町でもこの争いがありました。 そこで、てい防の高さをあわせて争いが起こらないように、てい防の高さを石の柱に示しててい防にうめこみました。 これが印石です。 <u>黒板貼り付け：印石</u></p>	<p>教材</p> <div data-bbox="2154 317 2306 516" data-label="Image"> </div> <p>愛ご地ぞう (高地ぞう)</p> <div data-bbox="2145 959 2377 1131" data-label="Image"> </div> <p>かき寄せてい</p> <div data-bbox="2089 1188 2442 1377" data-label="Image"> </div> <p>てい防のイラスト</p> <div data-bbox="2148 1438 2347 1696" data-label="Image"> </div> <p>印石</p>	

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
まとめ (5分)	<p>T:今日の学習で分かったことを、ノートにまとめてください。</p> <p>T:ノートにまとめたことを発表してください。 (C:昔、平野ではたびたびこう水が起きていました) (C:あい作がさかんでした) (C:今でも残っているこう水のあとから、昔のこう水ひ害の大きさなどを知ることができます)</p> <p>T:それでは、今日のまとめです。</p> <p>まとめ：昔は平野でたびたびこう水が起きていた。 徳島平野では、台風が来る前にしゅうかくできるあいのさいばいがさかんだった。 昔のこう水のあとや水害からくらしを守るためにつくられた家などが残されていて、それらから昔のこう水ひ害の大きさや昔の人たちの知えを知ることができる。</p>		


<板書計画>


吉野川にはどんなこう水や水害の歴史があるのだろう

家を守る


命を守る

昔の吉野川<1646年>






周りより高く土を盛り、石がきで囲む



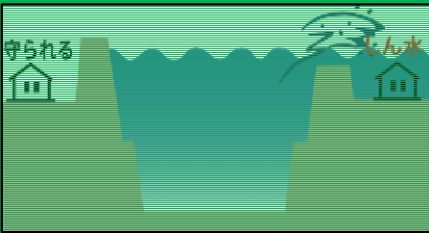
屋根がうき上がり舟の代わりになる

地域を守る




かき寄せてい
土をかき寄せたてい防

てい防の高さが違うと



印石





てい防の高さを
合わせるための印

・いくつもの川がくねくねと流れていた
・今のようなてい防がなかった
・平野でこう水がたびたび起きていた
・いな作よりあい作がさかんだった

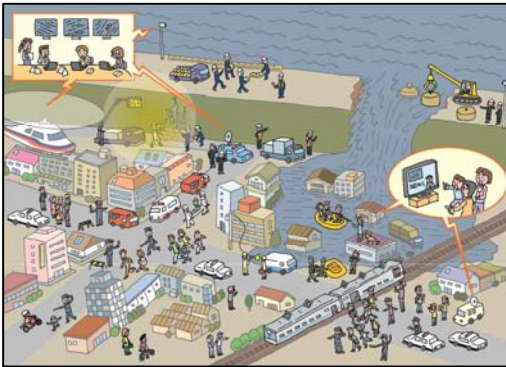

全国一のあいの産地であった

まとめ：昔は平野でたびたびこう水が起きていた。
徳島平野では、台風が来る前にしゅうかくできる あいのさいばいがさかんだった。
昔のこう水のあとや水害からくらしを守るためにつくられた家などが残されていて、それらから昔のこう水ひ害の大きさや昔の人たちの知えを知ることができる。

発問及び板書計画(3/4 自然災害から暮らしを守るために)

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>導入 (10分)</p>	<p>T: みなさん、前回までの授業ではどんなことを学習しましたか? (C: 日本は自然災害が起こりやすい地形や気候となっていることが分かりました) (C: 吉野川の周りでは、こう水などの水害が起こりやすいことが分かりました) (C: 水害が起こったら、私たちの生活や産業に大きな被害がでることが分かりました) (C: 私たちの住んでいる近くにも、昔のこう水のあとや水害から暮らしを守るための家などが残されていることを知ることができた) (C: 昔のこう水ひ害の大きさや、昔の人たちの知えを知ることができた)</p> <p>T: そうですね。吉野川の周りでは、こう水が起こりやすいということが前回までの授業でわかりましたね。</p> <p>T: こう水などの水害が再び起こらないように、国や徳島県や石井町では対さくを行なっています。 みなさん、どんな対さくを行なっているか知っていますか? (C: てい防の工事をしていると思います) (C: ダムで川の水の量を調節していると思います)</p> <p>T: そうですね。てい防、ダムなどがありますね。 <u>黒板貼り付け：てい防、ダム</u></p> <p>T: 水害を防ぐために、国や徳島県や石井町ではさまざまな対さくを行なっています。 今日はこのことについて学習していきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 自然災害の一つである水害の防止のためにどのような対さくが行われているのだろう </div>	<p style="text-align: center;">教材</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 100px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> てい防 ダム </div>	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ てい防以外にも水害に備えて国などがふだんから行っている対さくがあることを気付かせる。

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>T: てい防やダムにはどのような効果があるか、みなさんわかりますか？ (C: こう水を川に閉じ込めてあふれないようにしています) (C: ダムは水をため込んでこう水が起こらないようにしています)</p> <p>T: みなさんの住んでいる身近にあるてい防は、こう水が川からあふれることを防ぎます。これは、前回までの授業で学習しましたね。吉野川の上流には、5つのダムがあります。これらのダムでは、こう水の時に、上流にふった大雨をいったんダムに貯めて、下流へ流す水の量を減らして、下流の川があふれないようにしています。</p> <p>T: このような、こう水がみなさんの住んでいる場所へあふれるのを防ぐ働きをもったし設を作ることを「治水対さく」と言います。</p> <p>T: これから配るプリントは、もし吉野川にてい防やダムがなかったら、平成16年10月に起こった大きなこう水ではどうなっていたかの説明があります。 プリント配布: てい防やダムの効果</p> <p>T: 吉野川の上流にある5つのダムでこう水のときに下流に流す水の量を調節したことで、三好市井川町にある三好大橋付近の水位を約1m下げることができました。約1m水位が下がると、1秒間にここを通過する水の量が、25mプールの約6杯分の水が少なくなったこととなります。池田ダムから岩津橋までの間で、水につかる面積が、約300ha少なくなります。これは、徳島阿波おどり空港の約2個分(約1.6個分)です。</p> <p>T: もし、岩津橋から河口までのてい防がなかったら、しん水する面積は約7,000ha増えます。これは、岩津橋の下流にある善入寺島の約14個分です。しん水する家は、約82,700戸増えます。</p> <p>T: このように、てい防やダムがあることで、ひ害を小さくすることができました。</p> <p>T: 国や徳島県や石井町では、ダムやてい防などのし設を造るほかにもこう水によるひ害を小さくするためにふだんからしている備えがありますが、何だと思いませんか？ (C: し設点検です) (C: パトロールです) (C: 訓練です)</p> <p>T: そうですね。 電子黒板: 河川パトロール, し設の点検, 水防訓練, 防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ てい防に穴やへこみがないか、きれつがないか等の吉野川にいつもとちがうことが起きていないか確にんするための河川パトロール。 ・ こう水の時にダムの機械が正常に作動するか、部品がこわれていたら交かんや修理をするなどのし設点検があります。 ・ 災害が発生したときにはすぐに対応できるように実際にこう水がおこったことを想定して、水防団の人たちと協力して、こう水でてい防がこわれた時に応急対さくを行う水防訓練をしたり、こう水の時に川の水位情報などひ害を小さくするために必要な情報をやりとりする防災訓練など、さまざまな訓練をしています。 <p>T: このように、こう水の時のひ害を小さくするための対さくも、国・徳島県・石井町ではふだんから行っています。</p>	<p>教材</p>  <p>てい防とダムの効果</p>  <p>参考: 徳島阿波おどり空港 約190ha</p>  <p>参考: 善入寺島 約500ha 参考: 25mプール: 25m×12m×1.2m</p>  <p>河川パトロール</p>  <p>し設の点検</p>  <p>水防訓練</p>  <p>防災訓練</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ てい防やダムがあることで、こう水時にどのような効果があるか気付かせる。 ・ てい防の設置, 維持についての学習で、水害防止に公的機関が関わっていることをとらえさせる。

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>T:こう水が起こった時にも、国・徳島県・石井町の人たちはこう水のひ害を防ぐために働いています。</p> <p>T:それでは、こう水が起こった時、どんな人たちが、どんな働きをするのか、グループで話し合ってノートにまとめてください。 <u>黒板貼り付け：水害の発生時に働く人びとのイラスト</u></p> <p>T:みんなで話し合ったことを発表してください。 (C:けい察官がひなんする人をゆうどうしています) (C:救急隊員がけが人を運んでいます) (C:てい防を直している人がいます) (C:マスコミの人がレポートしています) (C:自衛隊が人びとの救助をしています)</p> <p>T:そうですね。これから配るプリントに、水害が起こった時に働く人びとについての説明があります。 <u>プリント配布：水害の発生時に働く人びとの仕事内容</u></p> <p>T:イラストの中で、てい防を復旧しているのは、国土交通省や徳島県の人たちです。 水防団の人たちは、土のうという土が入ったふくろを積み上げて、てい防をほ強していますね。 他にも、气象台と国土交通省の徳島河川国道事務所共同でこう水予報の発表を行ったり、石井町がひなん指示を発令したり、徳島県が関係機関に連らくしたりします。</p> <p>T:このように、さまざまな人が協力してひ害を最小限におさえるために働いているのですね。 水害に限らず、地しんやつ波など、他の自然災害についても同じです。</p>	<p>教材</p>  <p>水害の発生時に働く人びとのイラスト</p>  <p>水害の発生時に働く人びとの仕事内容</p>	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時にさまざまな人が協力してひ害を最小限におさえるために働いていることを気付かせる。


配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
まとめ (5分)	<p>T:今日の学習で分かったことを、ノートにまとめてください。</p> <p>T:ノートにまとめたことを発表してください。 (C:水害を防ぐために、国や徳島県や石井町でさまざまな対さくが行われていることが分かりました) (C:吉野川のてい防がこわれると、石井町がしん水してしまうことが分かりました) (C:吉野川のてい防がこわれないように、ふだんから働いている人たちがいることが分かりました) (C:水害が起こったら、さまざまな人が協力してひ害を最小限におさえるために働いていることが分かりました) (C:国や徳島県や石井町の人たちが協力して、私たちのくらしの安全のために働いていることが分かりました)</p> <p>T:それでは、今日のまとめです。</p> <p>まとめ：国や徳島県や石井町でこう水に備えてふだんからさまざまな対さくを行っている。 こう水の時や災害が起こった時には、さまざまな人が協力して、地いき住民の安全を守っている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・授業をふり返り、多くの人たちの働きで自分たちの安全な生活が保たれていることに気付かせる。

<板書計画>


自然災害の一つである水害の防止のためにどのような対さ**くが行われているのだろう**

災害にそなえてふだんから行っている対さ**く**

治水対さ**く** → **こう水**があふれることを防**ぐ**



てい防



ダム


点検、訓練 → **こう水**時の**ひ害**を小さくする

- ・河川パトロール
- ・水防訓練

- ・し設の点検
- ・防災訓練

災害の時に行**っていること**

災害時に働く人びと



さまざまな人びとが協力している






- 徳島河川国道事務所、徳島県
→・**こう水**の**予**想を伝える
・川の見回り、**てい防**の修理
・関係機関に**情**報を連らく
- 石井町→・ひなん指示 ・ひなん所を開く
- 水防団→・川の見回り ・**てい防**のほ強
- 消防→・人命救助 ・けが人を病院に運ぶ
- けい察→・ひなんをゆうどう
- 自衛隊→・人命救助 ・救えん物資を運ぶ
- 電力、ガス、水道、電話、鉄道会社
→・こわれた部分の修理
- マスコミ→・**情**報を伝える

➡


ひ害を小さくするために...

まとめ：国や**徳**島県や石井町で**こう水**に**備**えてふだんからさまざまな**対さく**を行っている。
こう水の時や**災害**がおこった時には、さまざまな人が協力して、地いき住民の**安全**を守っている。

発問及び板書計画(4/4 自然災害に備えてできることを考えよう)

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>導入 (10分)</p>	<p>T: みなさん、3時間「自然災害の防止」について学習してきましたが、これまでの授業について振り返ってみましょう。 <u>黒板貼り付け：自然災害の写真（こう水、土しゃくずれ、地しん、つ波、ふん火）</u></p> <p>T: これまでの授業のまとめを1つずつ発表してください。 (C: 日本は自然災害がおりやすい地形や気候となっていて、水害などの自然災害が起こると私たちの生活や産業に大きなえいきょうがでる) (C: 過去のこう水のあとや水害からくらしを守るための対さくなどを見ることで、過去の水害の大きさを知ることができる) (C: 国や徳島県や石井町は、災害を防止するためにさまざまな対さくを行なっている) (C: 災害時にも、ひ害を小さくするためにさまざまな人が協力して地いき住民の安全を守っている)</p> <p>T: そうですね。日本ではさまざまな自然災害が起きています。それは地形や気候が関係しているということや、水害などの自然災害が起こると私たちの生活や産業に大きなえいきょうがでることを1時間目に学習しましたね。 そして、2時間目は、吉野川のこう水の歴史や水害からくらしを守るための工夫について、3時間目は、国や徳島県や石井町が災害を防止するために行なっている対さくや、災害時に働いている人びとについて学習しました。</p> <p>T: では、自然災害に備えて私たち自身に何かできることはないでしょうか？ 今日の授業ではこのようなことを学習したいと思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自然災害に備えて自分たちができることはなんだろ</p> </div> <p>T: 今日は、自然災害のひとつであり、地形と気候条件から石井町で起こりやすい災害である水害に備えて、みなさんがふだんできることは何かを考えていきましょう。</p>	<p style="text-align: center;">教材</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">(こう水) (土しゃくずれ)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">(地しん) (つ波)</p> <div style="text-align: center;">  <p>(ふん火)</p> <p>自然災害の写真</p> </div>	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かん潔に1～3時間を振り返る。

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>T:では、これからプリントを配ります。 <u>プリント配布</u>:チェック7 水害が起こっても君は大じょう夫?</p> <p>T:これから、水害に備えて、みなさんがふだんから行なっていることをチェックしてみましょう。</p> <p>T:これから先生が読み上げるので、チェックをしてみてください。 <u>読み上げ</u>:チェック7 水害が起こっても君は大じょう夫?</p> <p>T:どうでしたか?何個チェックがつかしましたか? (C:全然チェックがつかせませんでした) (C:●個しかチェックがつかせませんでした)</p> <p>T:みなさんチェックの数が少ないようですね。みなさん、グループになってください。 これからこのチェックリストを参考にして、水害に備えて私たちがふだんからできることは何なのか、グループで話し合っ てノートにまとめてください。</p> <p>T:では、みんなで話し合ったことを発表してください。 (C:ひなんする場所を調べておくことだと思います) (C:ひなん場所への道を調べておくことだと思います) (C:家族と連らくが取れる連らく先を調べておくことだと思います) (C:ひなん道具を準備しておくことだと思います) (C:ふだんから家族で話し合うことだと思います)</p> <p>T:そうですね。では、これからみなさんに石井町のこう水ハザードマップを配ります。 <u>プリント配布&電子黒板</u>:石井町のこう水ハザードマップ 電子黒板:指定ひなん場所のマーク</p> <p>T:このハザードマップを使って、水害が起こった時にみなさんがひなんする場所を確にんしてみましよう。 このマーク(指定ひなん場所のマーク)の場所が、ひなん場所です。 みなさんが住んでいる場所から一番近いひなん場所はどこですか? (C:藍畑小学校です) (C:公民館藍畑分館です) (C:●●●です)</p> <p>T:そうですね。ひなんする場所は藍畑小学校や●●●です。</p>	<p>教材</p>  <p>チェック7 水害が起こっても君は大じょう夫?</p>  <p>石井町こう水ハザードマップ</p>  <p>指定ひなん場所のマーク</p>	

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
<p>展開 (30分)</p>	<p>(例1：ひなん場所がしん水地いきに入る場合) T:では、ひなん場所の色は何色になっていますか？ (C:水色です)</p> <p>T:そうですね。この色がついている地いきは、こう水などの水害が起こった時、しん水してしまう可能性があります。ですので、みなさんはしん水しない別の場所にひなんしなければなりません。</p> <p>T:もう一度ハザードマップを見て、みなさんが住んでいる場所から一番近いしん水しないひなん場所をさがしてください。</p> <p>T:みなさんがひなんする場所がわかりましたか？ (C:農業高等学校です) (C:前山公園屋内運動場の体育館です) (C:社会福祉法人有せい福祉会です)</p> <p>T:そうですね。 石井町では、こう水などの水害が起こった時、町全体がしん水してしまう可能性があります。ですので、しん水してき険になる前に、安全な場所へひなんする必要があります。 ふだんからハザードマップを使って、ひなん場所やひなん場所への経路を家の人と確にんしておきましょう。 地しんなど、水害以外の災害の場合はひなん場所が違います。災害の種類にあわせて安全な場所へひなんするようにしましょう。</p> <p>T:では、これからプリントを配ります。 このプリントを参考にして、水害が起こった時に、私たち自身でできることをグループで話し合っってノートにまとめてください。 <u>プリント配布：水害に対する心がけ・きん急時の心がけ</u></p> <p>T:では、みんなで話し合ったことを発表してください。 (C:川の水位に注意することだと思います) (C:テレビやラジオで天気や防災情報を確にんすることだと思います) (C:お年寄りや子どもをゆう先して、落ち着いて行動することだと思います) (C:ひなんのよびかけ・ひなん指示に速やかにしたがうことだと思います)</p> <p>T:そうですね。この他にも高いところに早くひなんすることも大事なことです。</p>	<p>教材</p>  <p>水害に対する心がけ ・きん急時の心がけ</p>	

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
展開 (30分)	<p>T:では、水害に備えてふだんからできることや、水害が起こった時にできることで、地しんやつ波などの水害以外の自然災害が起こった時と共通することはありますか？</p> <p>板書：共通しているこう目に赤丸をつけていく</p> <p>(C:ひなんする場所を調べておくことは共通していると思います) (C:ひなん場所への道を調べておくことも共通している思います) (C:家族と連らくが取れる連らく先を調べておくことも共通していると思います) (C:ひなん道具を準備しておくことも共通していると思います) (C:ふだんから家族で話し合うことも共通していると思います) (C:お年寄りや子どもをゆう先して、落ち着いて行動することも共通していると思います) (C:ひなんのよびかけ・ひなん指示に速やかにしたがうことも共通していると思います)</p> <p>T:そうですね。他にもテレビやラジオで防災情報を知ることも共通していますね。 万が一の水害に備えて何をしなければならないか、水害が起こった時どのように行動しなければならないかを知っておくことはとても大切です。</p> <p>T:これらのことは、水害に限らず、地しんなどの自然災害についても同じです。</p>		



配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
まとめ (5分)	<p>T:今日の学習で分かったことを、ノートにまとめてください。</p> <p>T:ノートにまとめたことを発表してください。 (C:水害の時にひなんする場所がわかりました) (C:水害に備えておくことは大切だということがわかりました) (C:自然災害が起こったときにどのように行動しなければならないかを知っておくことは大切だということがわかりました)</p> <p>T:それでは、今日のまとめです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>まとめ:水害に限らず、自然災害に備えてふだんから自分にできる備えを行うことが大切である。</p> </div>		

<板書計画>



自然災害に備えて自分たちができることはなんだろう

自然災害


水害

こう水
土しゃくずれ

地しん
つ波



ふん火

水害に備えてふだんからできること

- ひなんする場所を調べておくこと
- ひなん場所への道を調べておく
- 家族と連らくがとれる連らく先を調べておく
- ひなん道具を準備しておく
- ふだんから家族で話し合う

水害がおこった時にできること

- ・ 川の水位に注意する。
- テレビやラジオで天気や防災情報を確にんする
- お年寄りや子どもをゆう先して、落ち着いて行動する
- ひなんのよびかけ・ひなん指示に速やかにしたがう

水害以外の自然災害でも自分たちができることは共通している。

まとめ:水害に限らず、自然災害に備えてふだんから自分にできる備えを行うことが大切である。